

スマートライフ

決算書の活用法 プロが伝授 データの宝庫、個人投資家の銘柄選びにヒント

企業の業績や財務内容を明らかにする決算書。

個人投資家にとって銘柄選別に役立つデータの宝庫だ。

2008年度の決算発表がピークを迎えたいま、

公認会計士など決算書のプロに活用策を語ってもらった。

セグメント情報を分析 事業の先行き見極め

公認会計士・植松亮さん

「全体の数字だけではなく、部門ごとの動向をつかむことが株式投資には不可欠」——。公認会計士の植松亮氏が、自らの投資体験を踏まえて着目するのが「セグメント情報」だ。

売上高、営業利益などの財務情報を事業別や所在地別に区切って示したものがセグメント情報である。決算短信の中ほどに掲載されている。ちなみに決算短信とは決算書の一種で、インターネットを利用すれば発表後すぐに入手できる。一般の投資家なら決算書＝決算短信と考えてもいいだろう。

植松氏が例に挙げたのがダイハツディーゼル（6023）。4月23日に2009年3月期の決算短信を発表した。「あまり分析されていない中堅企業を取り上げるのが好き」という植松氏の説明には、「お宝発掘」の狙いもある。同社は知名度は高くないが、厳しい環境の中で09年3月期も業績を伸ばし、6期連続で増収増益。でも株価は昨年6月の高値（1510円）の約3分の1。割安で投資好機なのだろうか……。

まずはセグメント情報で「海外売上高」を見ると、09年3月期は全体に占める比率が48.9%にまで達した。東南アジア向け売上高が298億円と08年3月期比54%も増えた。

似た項目で「所在地別セグメント情報」もある。こちらは「売り先」ではなく海外子会社など「販売元」のデータを示し、売れている市場を探るには適当ではない。混同に注意しよう。

同社のウェブサイトで過去の決算短信も見ていくと、東南アジア向けを中心に海外売上高が急速に伸び続けている。世界不況の震源地である米国や欧州ではなくアジア市場での躍進が同社の業績を支えているとみられる。

ただ、事業別のセグメント情報を見るとやや異変が感じられる。ダイハツディーゼルの事業は、船舶用エンジンなどの「内燃機関」、自動車のアルミホイールなどの「産業機器」「不動産賃貸」の3つに分かれる。

このうち内燃機関が売上高・利益と



うえまつ・りょう 公認会計士・税理士。プリヂストン、センチュリー監査法人を経て、1998年に独立。著書に「会計士が教える銘柄選び」「個人投資家のための銘柄選びに差がつく！決算書の読み方」など。41歳。

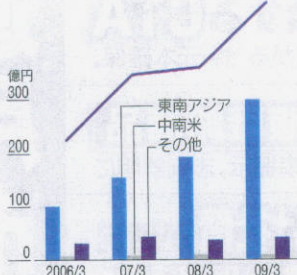
もに9割ほどを占める大黒柱だが、四半期ごとに点検すると08年4～6月期の26億円をピークに営業利益は減っている。09年1～3月期は18億円。営業利益率も20%から10%に低下。「アジアでの事業は伸びても効率が悪くなっているのでは」と植松氏はひっきりを感じている。

会社側も、船の荷動きの激減や造船

ダイハツディーゼルのセグメント情報

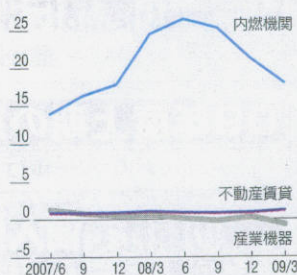
海外売上高（本決算ベース）

海外比率



事業別営業利益（四半期ベース）

30 億円



セグメント情報

1. 事業の種別別セグメント情報

経理会計年度（自）	平成19年4月1日	業	平成20年3月31日	計	前又は	連
経理会計年度（自）	平成19年4月1日	業	平成20年3月31日	計	前又は	連
売上高及び営業利益						
売上高	53,905	6,041	731	60,677	60,677	60,677
(1) 外部顧客に対する売上高	53,905	6,041	731	60,677	60,677	60,677
(2) 子会社の内部売上高又は相互売上高	46,086	5,128	561	51,775	51,775	51,775
営業利益	7,219	312	357	7,888	(2,049)	5,839
経常利益	5,118	6,478	56,913	68,509	3,524	62,437
経常利益率	13.7	37.5	77.2	11.3	5.8	10.3
営業外支出	1,139	1,091	58	2,288	2,288	2,288
営業外支出率	2.7	1.8	8.0	3.8	3.8	3.8

4期分のデータ並べ 異常値探り出す

税理士・林裕二さん

「まずは決算短信の表紙を2枚使って、4期分のデータを整理してみよう」。税理士の林裕二氏は生活雑貨店「無印良品」を展開する良品計画（7453）を例にして、業績の推移をまとめた一覧表を見せてくれた。

表に記したのは売上高や経常利益、純資産といった連結決算の基本的なデータ。いずれも決算短信の表紙に載っている。この1冊を読むだけで業績や財務内容のよしあしがざっとつかめる。そんな便利で貴重な情報源が「短信」の表紙である。

これを投資にうまく生かしたいのなら「業績や財務のトレンドを把握するため時系列でデータを確認してほしい」と林氏。1つの短信に載るのは2期分のデータだが、3期～5期分並べるのが望ましいという。簡単

な方法としては、直近とその2期前の2枚の表紙を用意すれば、4期分のデータがつかめる。良品計画が4月15日に発表した2009年2月期決算と、07年2月期決算の短信から右表の主要部分を作成した。

売上高や経常利益の推移を見る限り、同社は業績の安定度が高いといえるだろう。前期に業績が急速に悪化した、それまでの好調トレンドが一変した企業が突出する中で、小幅な経常減益にとどまっている。70%台半ばの自己資本比率など堅実な財務体質に大きな変化は見られない。

しかし、09年2月期の純利益が69億3600万円と、前期より35%も落ち込んだのが目を引く。経常利益に比べて減少率が大きすぎるのだ。

なお四半期ごとの売上高や営業利益は、第1四半期なら決算短信にある数値をそのまま使う。第2四半期以降なら直近の決算数値から直前の四半期までの累計を引いて算出する。

事業別のセグメント情報では、「資本的支出」の項目も重要。企業がどこに重点を置いて資金を投入しているかわかる。



はやし・ゆうじ 会計事務所勤務を経て、2000年に税理士として独立。CFP資格も持つ。成長地域として中国などアジアへの投資にも関心がある。著書に「税理士が教える決算書からわかる『最強割安株』」など。39歳。

こうした「異常値」を見つけたら突っ込んで調べよう。09年2月期の決算短信の12ページ、損益計算書の特別損失の欄に44億4600万円の「投資有価証券評価損」が見つかった。

さらに「評価損は監査法人に指導され仕方なく小出しにしたのかもしれない。まだ損が残っている可能性がある」と考え、短信をめくる。27ページの「その他有価証券で時価のあるもの」で有価証券の大枠が分かった。株価が取得原価を大きく下回ると減損処理（□8面）をして簿価を下げるのが会計のルール。44億4600万円の減損処理により有価証券残高は116億200万円に減った。